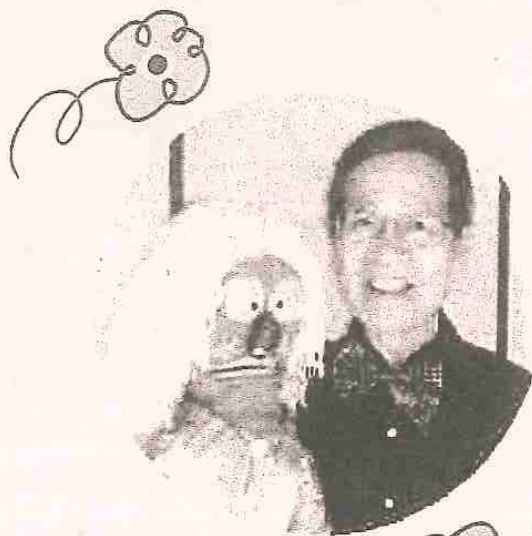


～3年間ありがとう～

今から13年前、えんのヘルパーだった妻の幸子と一緒に初めてえんに顔を出したのは12月。その日は焼いもタイムでした。なんと翌年は焼いもの準備を率先して手伝ってました。最初はデイの送迎ボランティアから始まり、その後ヘルパーの資格をとって正式にえんで働くことになりました。

今でも心に残ってること。車の中で乱暴な行動をとる利用者さんがいて、スタッフが私に「絶対に押さえつけないでね」とのひと言でした。若いお母さんのスタッフには帰りの短い時間でしたが子育ての苦勞も聞かせてもらいました。ケアサポートえんに移ってからは利用者さんとの関係が大事になって、楽しい時間を過ごすことが出来ました。でも年齢にはかないません。『老兵は消えゆくのみ』です。楽しく有意義な時間を頂きありがとうございました。

ところで、私は腹話術師という別の顔をもっています。『ダメジャーなかそね』という芸名で毎月4～5回は新座市を中心に子供から高齢者まで笑いを届けております。マジックや切り絵、手話ソングなどマンネリ化しないよう工夫してます。先日、えんのデイサービスで挑戦したバルーンアートでは、練習では出来ていた風船が破裂して皆さんをドッキリさせてゴメンなさい。これからもデイホームやグループホームの皆さまとは庭での畑作業などでもお世話になります。昨年5月にはスタッフの子供達と一緒にグループリビングで『ダメジャーと仲間たち』の作品展の機会を頂きました。子供達の生き生きした作品と私の手作りの人形たち、ろうけつ染めの作品を発表して喜んでもらいました。



えんを卒業してひまを持てあましていた私に、栄小学校のココフレンドという放課後の児童見守りの仕事が見つかりました。鬼ごっこをしたり運動オンの私にとって経験したことのない時間を歩み始めました。すべてに感謝しています。ありがとうございました。

(ボランティア／中曾根忠夫)